News letter

2026年10月
Vol. 2

一般社団法人 日本作業療法士協会
地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

2026年度 第2回地域事業支援会議

茨城県士会版

2026年10月3日、4日に日本作業療法士協会「第2回 地域事業支援会議」を開催し、各都道府県士会の選任者および聴講者等あわせて 150名を超える皆さまにご参加いただきました。本会議では、5歳児健診・学校領域への参画推進、協会認知症対策班から軽度認知症・MCIの地域生活支援などについて、具体的取組や情報共有、地域でのOTニーズについてアイデア交換を行う貴重な機会となりました。

5歳児健診・学校領域でのOT参画に向けた仕組みづくりの紹介 （地域社会振興部からの報告）

今年度の重点事業として、5歳児健診や学校領域における作業療法士（OT）の参画を推進するための仕組みづくりが紹介されました。今年度のモデル事業として大阪府士会・奈良県士会が進めている「研修事業」と「派遣事業」の紹介がありました。大規模士会と小規模士会をモデルとし、士会間連携体制の構築が進められています。

各事業のトピックス

短期集中型サービス 事例募集について

『短期集中予防サービス実践事例集Vol.2』の作成に向け全国から8つのカテゴリー（日常生活動作、家事、趣味、移動、就労、社会資源、口腔栄養）事例を募集中！

応募はこちら



ニュースレター活用のお願い

地域事業支援会議では、会議後に「ニュースレター」を配信しています。しかし、理事会や士会員への情報発信が進んでいませんでした。是非、ご活用をお願いいたします。

認知症 MCIへの地域支援

地域で暮らす、軽度認知症・MCIの方々への地域生活支援の取組が紹介されました。本人の「やりたい・継続したい」を思いを支援し、社会参加につながる活動や施策に反映した報告がされました。

士会マネジメント事業

3年をかけ作成してきた『士会マネジメントQ&A』が完成しました。更に、全体の内容を要約した「要約版から地域支援事業に参画する上で必要なQ&Aが一目で解ります！

要約版はこちら



グループワークでは 「ブロック機能を発展させるアイデア」、「士会マネジメントQ&Aの活用」、「認知症施策とOT」、「行政にOTの役割をどう伝えるか」など様々なテーマで熱く意見交換を行いました。
ブロック間での連携・協力体制や実際に地域支援事業に参画するノウハウの活用、地域でOTニーズをどのように生み出すのか？ さまざまな参加者から有益なアイデアが出されました。

グループワークで挙がった具体的な意見として・・・
- ブロック内の活発な情報・意見交換を促進するため、グループLINEの作成へと発展した.
- 「人材育成」という言葉が参加の敷居を高くしている可能性がある為、興味を惹くキャッチ―なタイトルを考案する.
- 「士会マネジメントQ&A」は担当者レベルでの認知はあるものの、現場での実用・定着にはまだ至っていない.

編集後記

今回の会議では、地域で活動する作業療法士の可能性がさらに広がっていることを実感しました。子ども・学校での作業療法の展開やモデル事業の報告に加え、軽度認知症やMCIが疑われる方・診断を受けた直後の方への具体的な支援方法など、現場ですぐに活かせる幅広い知見を得ることができました。地域での一人ひとりの実践が、これからの作業療法の未来をつくります。ぜひ皆様の地域でも、新たな一歩を踏み出してみませんか？

イキイキ地域づくり事業部 担当：藤田